

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成21年12月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3771400482
法人名	特定非営利活動法人ほととぎすの会
事業所名	グループホームほととぎす
所在地	香川県高松市香川町川東下672-5 (電話)087-879-0797

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年11月21日	評価決定日	平成21年12月28日

【情報提供票より】(21年10月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 4月 15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	1階建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000円	その他の経費(月額)	9,750円+実費	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要(10月8日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	62歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	オサカ病院 綾田医院 いのした歯科
---------	-------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは木造平屋建てで、屋内は木を主体とした明るい温かな家庭的なつくりとなっている。敷地内に畑があり、季節の野菜などを収穫している。また、玄関の内外には季節の花などを植え季節感が味わえるようにしている。屋内には中庭があり、開放感があふれ、日中はそこで、日向ぼっこをしたり、洗濯を干したり、利用者が自由に出入りできている。利用者と共に暮らす生活を考え職員も家族の一員として関わりを持つようにしている。また、経営者も介護に参加し、ホーム全体の把握をしている。近隣との関係づくりも積極的に行っており、馴染みの関係が出来てきている。利用者と共に食事の用意や後片付け、掃除など活躍できる場面が多く引き出せるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

空港通りを少し入った場所にあり、広い敷地を持った木造平屋建ての事業所である。玄関を入ると中庭を挟んで1・2ユニットがある。居室はそれぞれに出窓があり、外には木が植えられ、紅葉を楽しんでいる。共同空間は天窓があり、天井が高く、明るく暖かい。「ほっとする、となり同士の笑い顔、ともに暮らす気の合う仲間、住めば都のほととぎす」を理念に掲げ「入居者の我が家と同じ暮らし・・・」を目指し、日々理念に向かって努力している。共同生活の中で、入居者が生き甲斐を持てるように気配りをし、入居者同士の助け合いの場面も見られる。また、散歩、買い物、ドライブ、畑仕事など出来るだけ毎日出かけられるように取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム全体ではグループホーム名にちなんだ理念を作り、ユニット内でも、一人ひとり自分らしく穏やかに過ごせるようにサービスを提供しますと言う理念を掲げ、利用者に接するようにしている。	グループホームの名にちなんで「ほととぎす」ほっとする、隣同士の笑い顔、共に暮らす、気の合う仲間、住めば都のほととぎす、を理念に掲げ取り組んでいる。	理念を現場のケアの中でどう取り組んでいくか、具体的な介護目標に向けて話し合い、実践する事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の水路の掃除、地元の小学校や幼稚園との交流、毎月小学校の登校時の旗持ち、挨拶運動に参加、近所の方と挨拶や話をしたり、近所のスーパー、コンビニなどに通いなじみの関係を築いている。	地域の用水路の掃除(年1回)、毎月1日は職員2人と入居者2~3人が参加して小学校正門前で子供たちと挨拶、幼稚園のお遊戯会に行き、訪問時に手作りの小物をプレゼントし、園児の手作りの小物をもらうなど地域での交流が幅広く行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に住んでいる方から認知症の人の相談を受けたり、家庭での暮らしについてのアドバイスなどを行っている。また、地域包括支援センターとも協力しながら地域で認知症の方が暮らしていけるように、支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況やサービスの評価、意見などを交換し合い、サービスの向上に努めている。また、アドバイスをもらった意見を職員全員で話し合い、実践する為の具体案を検討し、実施している。	地域交流についてのアドバイスにより、ボランティア活動の情報をもらい、地域のゴミ拾いに参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外のときでも、相談したり、行事ケアサービスについても参加してもらえるように声かけをしている	運営推進会議の折、他事業所の情報や感染予防などについて指導を頂いている。また事業所内での大きな行事(夏祭り、クリスマス)について案内状を送っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業者内で実施し職員の共有意識を図っている。	身体拘束・虐待防止委員会を設置、メンバー5人を中心に取り組んでいる。外部の研修に積極的に参加し、これを基にして事業所内での勉強会が実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての勉強会を定期的に行い、虐待防止マニュアルを作成し職員全員で話し合い事業所での虐待防止について話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度などの研修に参加し、勉強会を開くようにしている。現在、成年後見人制度を活用している利用者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ホームの契約書、重要事項説明書を文章で説明している。利用者や家族が不安や疑問などがないように十分説明し、納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見が反映できるように、ご家族にはお便りだよりや訪問時、家族会などで、何でも言ってくれるような雰囲気作りに留意している。	家族の意見はよく聞くように努めており、言いやすい雰囲気作りと信頼関係を保つよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや勉強会を行い、職員の意見や提案などを聞く機会を作り、働きやすい環境づくりに努めている。	月1回のミーティングで意見を出し合い検討されており、職員が言いやすい環境づくり、関係づくりはできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に来ており、利用者と過ごしたり、個別職員の業務や悩みを把握している。職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を認識しており、経験や習得度に合わせてホーム内で勉強会を開催したり、事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学や相互評価事業などに参加し、事例検討等を通して、事業所外の人材の意見や経験をケアに生かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に本人の求めている事や不安を理解しようと工夫している。本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談する家族の立場に立ち、家族が求めているものを理解し、家族のこれまでの経緯なども十分に話を聞き、家族の気持ちを受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、何が困っているのかの見極め、事業所としてできる限り柔軟な対応をとるようにしている。利用開始前まで気軽に来れるように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思い、苦しみや不安など心の中にある思いなどを汲み取れる関係となれるように努力している。職員も家族の一員という意識を持ち生活を送るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、家族と共に利用者を支える事が大切であることを伝え、家族の方と信頼関係が築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や近所の方との関わりが継続できるようにしている。墓参り、美容院など行きつけの場所などに出かけられるように家族の協力を得ながら続けている。	美容院については、馴染みのところへ送迎し対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまく行くように職員は調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプランや支援状況等で情報提供を行ったり、訪問したりし、スムーズに新しい生活に慣れるように連携を図るように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で話を十分に行うことで、把握できるようにしている。言葉や表情などからも本人の意向を汲み取るようにしている。	日々のかかわりの中で、話を十分聞くように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や暮らしぶりなどを本人や家族の方から聞くようにしたり、家具などを置いたりし生活しやすいスペースづくりをしている。また、日々の会話の中から発見したことなどがあれば、職員全員で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに夜間や日中の本人の状態を申し送り確認したり、体調の変化なども、小さな行動、言動などから感じとるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がその人らしく暮らすために、本人や家族の思いや意見を聞き、利用者本位の介護計画となるようにしている。	出来ることはさせて欲しいという家族の思いを大切に、計画作成に取り組んでいる。入居者も人の世話をすることが生き甲斐になり、洗濯たたみ、ジャガイモの皮むきなど得意とする事を見つけ、上手に声かけがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や本人の発した言葉、ケアの実践状況や毎日の生活の中での気づきを個別の記録に記入して、介護計画の評価、見直しに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、家族と一緒におやつや食事を食べてもらったり、外泊外出をされたり家族の要望もあり指圧をしたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けるように、民生委員や地域のボランティアへの協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が馴染みの医師や希望する医師の医療が継続的に受けられるように支援している。事業者の協力病院をかかりつけ医とする場合には本人や家族に同意してもらい安心して医療が受けられるようにしている。	馴染みのかかりつけ医で継続的に医療が受けられるように支援し、かかりつけ医の受診については、原則として家族が対応している。事業所関係の医師は2週間に1回往診してくれ、また、緊急時の対応もされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援をしている。看護職員がいない時は、介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院したときは、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、回復状態等、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応指針を定め、家族、医師、看護師を交えて話し合いを行っている。また、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。	重度化、終末期に対する対応方針により、家族、医師、看護師を交えて話し合い、状態に変化がある毎に、家族の気持ちの変化や思いに注意し支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行政関係者や消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施し、職員全員が対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を行っている。また、近所の方にも災害時には協力が得られるように声掛けをしている。	マニュアルがあり、年2回避難訓練が実施されている。災害時の近隣の方への協力依頼もなされている。	地震等災害時の協力依頼について、具体的にどのような協力を必要とするのかを明確にしていき、運営推進会議等を通して理解を深めていく事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会などで職員の意識の向上を図ると共に、日々の関わりの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応や声掛けを行っている。	プライバシーを尊重した言葉掛けや対応がされている。個性を尊重し特に幻覚、妄想のある人には寄り添うケアがされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、自己決定が行えるようにしている。意思疎通が困難な利用者には、表情などを汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた対応をする様にしている。本人の気持ちを尊重して、出来るだけ個性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや意向を聞きながら髪形や身だしなみやおしゃれを楽しめるように援助している。自分の行きたい美容院や散髪に出かけたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した食材を使って、メニューなどを決めている。調理、盛り付け、片付け等も利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るように雰囲気づくりも大切にしている。	毎食職員が中心となり調理している。材料は外出をかねて入居者と共に買いに行っている。また、畑で野菜が作られており新鮮なものが使われている。「畑の大根、今朝抜いてきたものよ」「美味しい」という声、和やかな雰囲気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みの量や栄養バランスなども考え対応している。味の好みなども、利用者に合わせて対応し、食事が美味しく食べられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、一人ひとりの口腔状態や本人の能力に合わせた対応をして、清潔が保てるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、訴え時や定期的に声掛けを行い、トイレ誘導を行うなどし、トイレでの排泄を心がけている。	排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のバランスを考え、野菜を多く摂取してもらうようにしている。便秘にならないように水分量の確認を行ったり、日中の活動量を増やすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のタイミングや希望に合わせて入浴が楽しめるように支援している。利用者に無理強いする事なく本人が入りたくするまで待ち、本人が気持ちよく入浴出来るようにしている。	週2回以上の入浴を目標に、タイミング、希望にあわせて実施されている。本人が気持ちよく入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情を考慮しゆっくりと休息できるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方せんを保管し、職員が薬の内容を把握できるようにしている。服用時には本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で利用者一人ひとりが力を発揮できるように支援している。お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩に出かけ、地域との関わりを持つようにしている。また、車椅子の方や訴えのない方も一緒に散歩やドライブ、買物に出かけたりし、外出の機会が多くもてるようにしている。	日常的な外出支援について、個別性はあるが散歩、買い物、畑など車椅子の人も含めて、外出の機会を多く持つように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を持っている人もいる。買物などに出かけた際は自分の財布からお金を出し自分の好きな物を買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話をかけたいと希望する時は電話をかけてもらうようにしている。家族の方には電話をかけた後で職員が話をしたりして信頼関係を築くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段自宅で使っているようなものを使用したり、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。季節の花を生けたりしている。建物も木造平屋建てで、落ち着いて過ごせるようにし、生活感、季節感が出るようにしている。	共用空間は広くて天井が高く、ゆったりした感じで明るい。中庭があり洗濯物が干されている。安全なので入居者と一緒に干したり、取り入れたりしている。喫煙する人も中庭を利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分が広くソファーやテーブル、畳、中庭などがあり、気に入った利用者同士が思い思いに過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族の方と相談しながら使い慣れたものを用意してもらったりして利用者が安心して暮らせる環境としている。	居室は個性を尊重、使い慣れた小さなタンス、小型のテレビ、家族の写真、お位牌、花が活けてあるなど本人が居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりのできることに注目し、どのようにしたら分かりやすいのかなどを考え、自分で出来る事が少しでも増えるような支援をおこなっている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I.理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム全体ではグループホーム名にちなんだ理念を作り、ユニット内でも、一人ひとり自分らしく穏やかに過ごせるようにサービスを提供しますと言う理念を掲げ、利用者に接するようにしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の水路の掃除、地元の小学校や幼稚園との交流、毎月小学校の登校時の旗持ち、挨拶運動に参加、近所のスーパー、コンビニなどに通いなじみの関係を築くようにしているが、地域の方と日常的に交流しているまでとはいえない。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に住んでいる方から認知症の人の相談を受けたり、家庭での暮らしについてのアドバイスなどを行っている。また、地域包括センターとも協力しながら地域で認知症の方が暮らしていけるように、支援している。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況やサービスの評価、意見などを交換し合い、サービスの向上に努めている。また、アドバイスをもらった意見などを職員全員で話し合い、実践する為の具体案を検討し、実施している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外のときでも、相談したり、行事ケアサービスについても参加してもらえるように声かけをしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業者内で実施し職員の共有意識を図っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての勉強会を定期的に行い、虐待防止マニュアルを作成し職員全員で話し合い事業所での虐待防止について話し合っている。

グループホームほととぎす(2区画)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度などの研修に参加し、勉強会を開くようにしている。現在、成年後見人制度を活用している利用者がいる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ホームの契約書、重要事項説明書を文章で説明している。利用者や家族が不安や疑問などがないように十分説明し、納得してもらっている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見が反映できるように、ご家族にはお便りだよりや訪問時、家族会などで、何でも言ってくれるような雰囲気作りに留意している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや勉強会を行い、職員の意見や提案などを聞く機会を作り、働きやすい環境づくりに努めている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に来ており、利用者と過ごしたり、個別職員の業務や悩みを把握している。職員の資格取得に向けた支援を行っている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を認識しており、経験や習得度に合わせてホーム内で勉強会を開催したり、事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学や相互評価事業などに参加し、事例検討等を通して、事業所外の人材の意見や経験をケアに生かしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に本人の求めている事や不安を理解しようと工夫している。本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談する家族の立場に立ち、家族が求めているものを理解し、家族のこれまでの経緯なども十分に話を聞き、家族の気持ちを受け止めるようにしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、何が困っているのかの見極め、事業所としてできる限り柔軟な対応をとるようにしている。利用開始前まで気軽に来れるように働きかけている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思い、苦しみや不安など心の中にある思いなどを汲み取れる関係となれるように努力している。職員も家族の一員という意識を持ち生活を送るようにしている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、家族と共に利用者を支える事が大切であることを伝え、家族の方と信頼関係が築けるようにしている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や近所の方との関わりが継続できるようにしている。墓参り、行きつけの場所などに出かけられるように家族の協力を得ながら続けている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまく行くように職員は調整役となっている。

グループホームほととぎす(2区画)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプランや支援状況等で情報提供を行い、スムーズに新しい生活に慣れるように連携を図るように心がけている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で話を十分に行うことで、把握できるようにしている。言葉や表情などから本人の意向を汲み取るようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や暮らしぶりなどを本人や家族の方から聞くようにしている。また、日々の会話の中から発見したことなどがあれば、職員全員で共有するようにしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに体調の変化なども、小さな行動、言動などから感じとるようにしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がその人らしく暮らすために、本人や家族の思いや意見を聞き、利用者本位の介護計画となるようにしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や本人の発した言葉、ケアの実践状況や毎日の生活の中での気づきを個別の記録に記入して、介護計画の評価、見直しに繋げている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、家族と一緒におやつや食事を食べてもらったりしている。

グループホームほととぎす(2区画)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けるように、民生委員や地域のボランティアへの協力を呼びかけている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が馴染みの医師や希望する医師の医療が継続的に受けられるように支援している。事業者の協力病院をかかりつけ医とする場合には本人や家族に同意してもらい安心して医療が受けられるようにしている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援をしている。看護職員がいない時は、介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院したときは、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、回復状態等、速やかな退院支援に結び付けている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応指針を定め、家族、医師、看護師を交えて話し合いを行っている。また、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行政関係者や消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施し、職員全員が対応できるようにしている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を行っている。また、近所の方にも災害時には協力が得られるように声掛けをしている。

グループホームほととぎす(2区画)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会などで職員の意識の向上を図ると共に、日々の関わりの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応や声掛けを行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、自己決定が行えるようにしている。意思疎通が困難な利用者には、表情などを汲み取るようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた対応をする様にしている。本人の気持ちを尊重して、出来るだけ個別性のある支援を行っている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや意向を聞きながら髪形や身だしなみやおしゃれを楽しめるように援助している。自分の行きたい美容院や散髪に出かけたりしている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した食材を使って、メニューなどを決めている。調理、盛り付け、片付け等も利用者と共に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るように雰囲気づくりも大切にしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みの量や栄養バランスなども考え対応している。味の好みなども、利用者に合わせて対応し、食事が美味しく食べられるように支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、一人ひとりの口腔状態や本人の能力に合わせた対応をして、清潔が保てるようにしている。

グループホームほととぎす(2区画)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握して、尿意、便意がなくならないようにトイレでの排泄を心がけている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のバランスを考え、野菜を多く摂取してもらうようにしている。便秘にならないように水分量の確認を行ったり、日中の活動量を増やすようにしている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のタイミングや希望に合わせて入浴が楽しめるように支援している。利用者に無理強いする事なく本人が入りたくなるまで待ち、本人が気持ちよく入浴出来るようにしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情を考慮しゆっくりと休息できるような支援をしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方せんを保管し、職員が薬の内容を把握できるようにしている。服用時には本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認を行っている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で利用者一人ひとりが力を発揮できるように支援している。お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。車椅子の利用者や活動量の少ない利用者に向けての支援が今後必要に思われる。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩に出かけ、地域との関わりを持つようにしている。また、車椅子の方も一緒に散歩に出かけたりし、外出の機会が多くもてるようにしている。

グループホームほととぎす(2区画)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を持っている人もいる。買物などに出かけた際は自分の財布からお金を出し自分の好きな物を買ったりしている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話をかけたいと希望する時は電話をかけてもらうようにしている。家族の方には電話をかけた後で職員が話をしたりして信頼関係を築くようにしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段自宅で使っているようなものを使用したり、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。季節の花を生けたりしている。建物も木造平屋建てで、落ち着いて過ごせるようにしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分が広くソファやテーブル、畳、中庭などがあり、気に入った利用者同士が思い思いに過ごせるようになっている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族の方と相談しながら使い慣れたものを用意してもらったりして利用者が安心して暮らせる環境としている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりのできることに注目し、どのようにしたら分かりやすいのかなどを考え、自分で出来る事が少しでも増えるような支援をおこなっている。